

→林道(16:10)

### 浮小屋沢

1985年6月29日

L

浮小屋沢には、中津川林道にかかる8号橋を降りて入る。すぐに小滝があり、4mの滝が2本続く。まあこんなもんだらうと、先に進む。

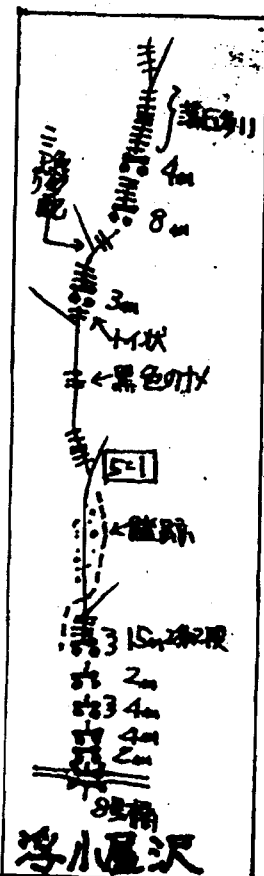
まもなく沢幅がひらけ、15mはあろうかと思われる立派な2段滝にでくわした。幸い斜瀑で、上段の左側はトイ状となっており、水は2条になって流れている。沢登りの経験の少ない高橋先生は大丈夫かなと心配したが、なかなかどうして、ワラジのフリクションを使って、あぶなげなく直登してくる。

滝の上はトイ状のナメが続き、これは意外にも当りの沢かなと思いきや、あとは二俣まで平凡な敷河原であった。水量の多い左俣に入る。

しばらくはナメまじりの河原が続くが、沢床の色は灰青色から黒に変わる。この先沢は急に勾配を増す。8mの赤い滝を越すと、上は傾斜のきついナメが続き、高度を上げるほどに落石にうまり、沢はついに敷に隠れてしまった。

(記)

[タイム] 8号橋(15:00)→二俣(15:40)→遡行終了(16:30)



### 黒滝沢

1985年6月23日

L

烏川林道のゲート手前に車を置き、身仕度して歩きはじめる。黒滝沢にかかる第3号橋までは20分程で着く。

8:50遡行開始。小滝をいくつか越していくと、さっそく20mはあろうかと思われるF<sub>1</sub>にぶつかる。この沢にはこれ以上の大きさをもつ滝はなく、沢の名前にもなっている黒滝ではないかと思われる。水量はそう多くないものの、2段になって落ちる様は見事である。福島キャノン山の会の記録によると、左岸を直登できるということであるが、ヌルがついているのでいやらしい。私達は右岸の草付を